

表2 第31回福島県文学賞受賞者

〔小説部門〕

文学賞	旅のおわりに	堀川喜美子	35	須賀川市	須賀川女子高教員
奨励賞	陽落つるとも	瀬川 倫弘	18	福島市	予備校生
	求職時代	城崎(岡部 次郎)	35	桑折町	工員
	執念	荒井 昭武	50	喜多方市	酒類販売業
	手紙	高橋 秀紀	38	船引町	会社員

〔詩部門〕

準賞	絵に描いた町	鈴木八重子	43	いわき市	主婦
	陸前浜街道	郷 武夫	29	いわき市	会社員
奨励賞	冬の陽	木川 保子	52	郡山市	会社役員
	湖のある村	大越(大塚 大次郎)	63	郡山市	会社役員
	ふいさとの詩(いわきの風物)	古山 一郎	46	いわき市	高久小教員
青少年奨励賞	青春	植田ヨネ子	17	郡山市	須賀川女高3年
	ついおく	志賀 浩子	18	鹿島町	相馬女子高3年

〔短歌部門〕

準賞	雪の鈴	佐原 美子	61	喜多方市	調停委員
	緑陰	星 陽子	48	会津若松市	主婦
青少年奨励賞	風景	長岡 成子	17	喜多方市	喜多方女高2年

〔俳句部門〕

準賞	金色の鴉	田中(一荷水 秀雄)	52	小高町	会社役員
	薔薇深齋	木(永五島 有紀子)	51	福島市	書道塾経営
奨励賞	海軍少年兵	岩木(片寄 唯夫)	50	いわき市	小名浜水産教員
	牛歩	矢渡 留吉	91	富岡町	無職
	田螺の道	三瓶(マズ 万寿)	67	福島市	主婦

八、第三十二回県文学賞

本年度の県文学賞作品募集は八月五日に締め切ったが、二百五十五点という史上最高の応募数となった。史上最高であった昨年度の百八十六点を大幅に上回り、かつてない応募点数の伸びをみたわけで、県民の文学への関心の高まりと本県文学界の広がりを示すものであろう。

応募作品の内訳は、小説四十五、詩百十九、短歌四十一、俳句五十点で、

いわき会場 千四百八十名
 ○合唱公演
 公演団体 東京混声合唱団
 期日・会場
 九月六日 郡山市民会館

九、家庭劇場

家庭劇場は、本格的な文化施設を有しない地域の県民のために、優れた舞台芸術を巡回公演して、家族ぐるみで芸術を鑑賞することを奨励し、豊かな家庭づくりと地域文化の振興に資する趣旨で実施しているもので、本年度も県内二十町村で開催した。

プログラムは、「大庭照子とうたおう」として、童謡、ポピュラー、歌あそびなどを、「コリンズ・ポーカー・演

各部門にわたり七十六点の青少年の応募があった(昨年度三十八点)。
 受賞作品は表2のとおりである。
 なお、受賞作品集である「県文学集」は五十四年三月刊行の予定である。



家庭劇場(表鄉村)

十、参加する文化活動事業

「奏会」として混声四重唱団による世界の民謡、日本の民謡、歌曲などの演奏を二十二小中学校等で公演した。各地ともたいへん好評で、両プログラムとも小中学生を中心に八千四百五十名の人たちが、生の演奏を楽しんだ。

文化庁では、文化行政の役割は文化の創造と活動にまつべきもので、この国民の創意と活動を刺激し伸長することを重視し、地域社会において積極的に参加する体制を整え、育成することを目的に昨年から「参加する文化活動費補助金」で助成している。今回の補助対象は郡山市で、県でもこの事業の趣



参加する文化活動事業「石彫の広場、(郡山市)

旨に同調し助成した。
 近年、県民の文化志向は、単なる中央文化の鑑賞や理解にとどまらず、みずから「する」活動に向かっている。これは県内各文化団体活動の活発化、多彩な文化行事、更に、各地の公民館における芸術文化関係の講座、発表会等の多様化、活発化等に見られる。
 このような状況のなかで、郡山市では「物をつくる活動」に力点を置き、「石彫の広場」版画を作るつどい、「陶芸にしたしむつどい」の三事業をおこし、積極的に推進し、市民間では大変好評で継続事業として来年度も実施されることに期待をよせている。
 ○実施内容
 石彫広場(五月〜八月、熱海公民館)